

島根大学交換留学レポート

エクセター大学 S.Y

今回のレポートでは、2～3月に大学で起きた出来事を報告します。まずは、ストライキについてです。2月の初めに、the University and College Union (UCU)という、エクセター大学も含めイギリスの多くの大学の職員、主に教授たちが所属している組合が、職員の年金を特別なものにするを求めて2月後半から3月中旬までの断続的なストライキを計画しているというメールがありました。イギリス人の学生も学校でのストライキは聞いたことがないというし、どうせ授業が中止になることはないだろうと思っていましたが、本当に起きました。ストに参加するかどうかは教授次第なのですが、私の取っている専門の授業は二つともストの影響を受け約1か月授業が本当になくなりました。(英語のクラスは大学とは関係ない組織が運営しているらしいので通常通りありました。)現在、ようやく大学側(the Universities UK)がUCUに同意する見通しのようです。デモストライキによる授業の中止に対して、現地の学部生たちの中には学費の払い戻しを求める署名を始めている人たちや合意を求めて大学内の施設に立てこもりをした人たちもいたそうで学生たちの行動力に驚きました。私としては、せっかく留学に来ているのに授業に出ることができず残念な気持ちと、ストの影響で少し予習が楽になったりエッセイの提出が延びたりしたので少しラッキーという気持ちが両方ありますが、日本では経験したことのないストが実際に起きたことに対する驚きが大きく、組合の意味や労働者の権利について考える機会になりました。

二つ目の大きな出来事は、7年ぶりの大雪です。エクセターはイギリスの南西部にあり、海も近いので積もるほどの雪が降ることが滅多にないようなのですが、大雪が降りました。島根大学はどれだけ積もっても休校になることはありませんが、エクセター大学は30cmほどの積雪で土日含め4日間一部の施設以外大学が閉鎖になり、2日間と半日休校になりました。学生たちは、珍しい雪に喜んでいて、坂だらけの大学なので学内で本格的なスノーボードやソリをするなど、かなり楽しんでいる様子でした。

最後に、イギリス国内でも話題になった出来事で、エクセター大学のLaw society(法律系のサークル)がソサエティー内のチャットに人種差別的な内容を書き込んだことが大きなニュースになりました。それに対し大学側はすぐに調査を行うことと、大学はいかなる差別も許さないという宣言をしていました。私はイギリスに来てから差別されていると感じたことはなかったので、法律の分野を学んでいる人たちの間でそのようなことがあったことに驚きました。イギリスはたくさん人種や民族がいるのですが、日本のように島国で自分の国のボーダーに意識が強くあるので他民族の人々との付き合いかたにそれぞれ差があるのだと感じました。以下の英文は大学からのメールの抜粋なのですが、このような状態が実現してほしいです。

There is no place at our University for any type of racism, bigotry or harassment and we condemn any such behaviour without reservation. ~ Every member of our community has the right to be treated with dignity and respect when they come to study, work and live here; no-one should ever experience any form of abuse or harassment.

(訳) 私たちの大学において、どのような種類の人種差別、宗教や人種に対する偏見、または嫌がらせも許容されることは無条件ではありません。私たちのコミュニティーに所属するすべての一員がこの場に学びに、働きに、そして住みに来た時、尊厳と尊敬をもって扱われる権利を持っています。誰一人としていかなる罵りや嫌がらせ行為を経験するべきではありません。

3月で授業学期は終わりで、4月にイースター休暇があり5月にエッセイの提出とテスト学期があります。2～3月はこのようにいろいろな出来事があり、授業はかなりなくなってしまいましたが、授業外のできごとからイギリスについて知ることができました。



※雪のキャンパスの様子



※UCU のデモの様子